



# ビオトープ・ニュース077

発行日 2015/05/30

発行：日本ビオトープ管理士会 徳島支部  
 事務局：徳島市山城町東俣5-281 新弘測量設計㈱内  
 事務局長：東條芳顕 TEL：088-622-5688

## ■ビオトープ・サロン 生物多様性戦略と持続可能な土地利用 ～自然との共生への険しい道のり～

本紙064号（2014.04.01 発行）の続編です。グーグルアースが更新されていたので紹介します。編集局

**【自然共生社会も、環境と経済の好循環も、言うは易く行は難し！】**

記者：櫻本幸実（会員）

減少の一途の平地林（雑木林）、かつては子どもたちの身近な自然遊びの場であり、カブトムシやクワガタの生息地、サギ類のコロニーともなっていました。（詳しくは本紙064・068・069号をご参照ください。）

メガソーラーは、自然（再生可能）エネルギーとして期待される一方、身近な自然（自然草地や雑木林）と競合し、土地利用という点では極めて難しい現実と直面します。都市も里地も同様に自然草地や平地林は姿を消し、耕作放棄地に草地を見るものの、その多くはセイタカアワダチソウをはじめ、イネ科やキク科の外来種が繁茂しています。

樹林の存在は、地域景観の保全をはじめ、生物多様性保全や生態系ネットワークの拠点に止まらず、炭素固定という点でも重要な要素です。つまりは、地球温暖化防止にも生物多様性保全にも必要不可欠な存在であることは言うまでもなく、これが低炭素社会にも貢献する自然エネルギーの進展に伴って姿を消すという矛盾が生じています。

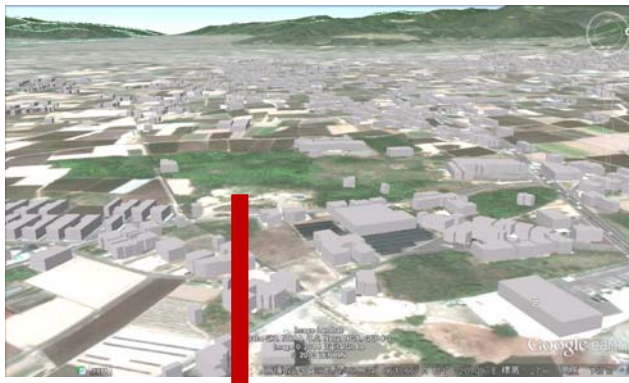
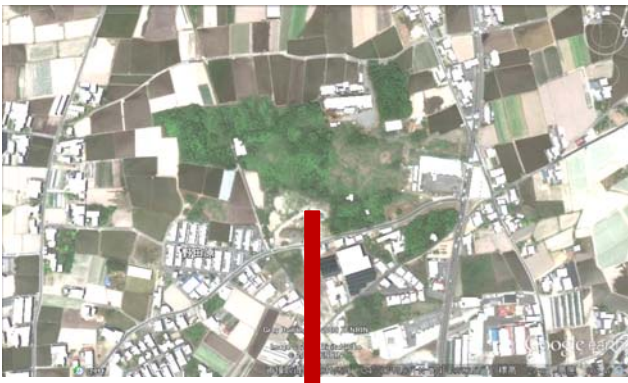
最近、いたるところでソーラー発電施設を目にしますが、果たして環境の視点はどのように反映されているのでしょうか…経済の視点やエネルギー（電気）の必要性はよく理解できるのですが、[自然エネルギー] [再生可能エネルギー] と、もてはやされることを理解するのは難しい現状があります。（ソーラーパネルは屋根へ地面には草木を！）

自然草地や雑木林は、未利用地と評されて開発の標的となっています。鳴門市ではコウノトリが営巣を始めたと言われ、多くの方にあたたかく見守られています。その営巣場所は電柱で、電力会社はその電柱を停電にするという異例（カラスなら排除ですね）の措置がとられました。他国では細高い塔や暖炉の煙突などでも営巣するそうですが、日本では本来、アカマツなどの大木の樹上だと言われています。（松に鶴の掛け軸のツルはコウノトリの誤認？）

コウノトリも、サギも、カラスも、スズメも、それぞれに生態的な役割があります。人間と上手く住み分けて、安心して暮らせるビオトープ（湿地・草地・林地）を計画的に保全・再生して持続可能な土地利用を目指したいものです。



野生と人間との摩擦の主因は過密と接近、対策はビオトープ保全・創出とすみわけ。 撮影：2010年11月27日



ソーラー発電所ができるとの噂を聞き訪ねると、絶句。（発電所か否かは未確認） 撮影：2014年03月09日



■ビオトープ・サロン 身近な場所の生物多様性 ～外来種拡大の危機と地域の自然と文化の継承～

記者：樫本幸実（会員）

【特定外来種ナルトサワギクが侵入】

4月25日、GWの田植えの準備に我が家の田んぼへ出向きました。なんと、ナルトサワギクが一株（右の写真）、付近（阿波市土成町吉田）で見るのは初めてです。

この一株を放置すると、あっという間に拡大するのでしょうか。先ず抜き取ってその場で種子を焼き、代かきの際に鋤き込むことにしました。

既に種子をつけており、既に散布もされているようです。周辺には耕作放棄地や遊休地は無いのですが、畦畔や民家の余剰地などへの侵入が懸念され、注意が必要です。

高松自動車道沿線で拡大していますが、最寄りでは8年前に奥宮川内谷県立自然公園の一角で二株発見し、その場で抜き取り踏み付けたことがあります。今回の侵入経路は風か、用水路か、車や人（私）への付着か？



【復活するか？…御所の名物じんぞくたらいうどん！】



5月5日、宮川内ダム上流の谷筋に点在する“たらいうどん店”の中で唯一、じんぞくで出汁をとっている店に行ってきました。

思いもかけぬ“じんぞくの唐揚げ”がメニューに…迷わず注文、左の写真の右側が唐揚げで左の竹の器に佃煮です。初めて食しましたが、味は“じんぞくたらいうどん”とともに今後のお楽しみということで、コメントは控えておきます。

店員さんに「じんぞくはどこで？」と訪ねたところ、予想通り地産地消ではなく、業者から仕入れているとのこと。近い将来、谷川の自然再生とともに地産地消“じんぞく狩り”復活に期待です。

■ビオトープ・サロン ビオとくコーナー ～ビオトープ管理士頑張る～

1月から4月の活動について、ビオトープ管理士の活躍を簡単ではありますが紹介します。（編集局）

【1月から4月の活動】

- 01月15日 生物多様性とくしま会議に参加 稲飯管理士
- 02月01日 生物多様性シンポジウムに参加 稲飯管理士
- 03月06日 第2回吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会に参加 樫本管理士
- 03月07日 日本ビオトープ管理士会平成26年度第2回理事会に参加 樫本管理士
- 03月11日 生物多様性とくしま会議に参加 稲飯管理士
- 03月27日 カワバタモロコ増殖・放流実験連絡会議主催の放流実験に参加 片山・石川・糸田川管理士
- 04月08日 生物多様性とくしま会議に参加 稲飯管理士

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう！

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより  
無断転載禁止：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。（編集局）

【生態学の択一問題：正答と解説は次号で紹介】

問077：生物間の関係について述べた次の分のうち、誤っているのはどれですか。

1. 生物は他の生物と関わりをもちながら生活しており、その生物と生物の関わり合いのすべてを「生物間相互作用」という。
2. 同じ資源を利用する生物同士の関係を「共生関係」という。
3. 動物とその動物の体に種子を付着させ種子を散布する植物のような関係を「片利共生関係」という。
4. 植物とその花粉を運ぶ昆虫のような関係を「相利共生関係」という。
5. 「食う一食われる」というような緊張感をはらんだ捕食者と餌生物の関係を「敵対関係」という。

■前号076の解説（施工部門1級の記述問題）

まずはオオタカの繁殖状況・行動圏を把握し、それと公園整備事業との関わりを評価して改善策を検討することが必要。それをもとに多様なステークホルダーの合意形成を図り、今後のまちづくりのなかで最も望ましい方向性を導き出せるよう、アドバイスが述べられていれば良い。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/>（公益財団法人 日本生態系協会HP）

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報のもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください！ 編集局

【E-mail：kanv@nifty.com URL：http://biotopetokushima.yu-yake.com】